

- 参加者の様子を見て、じっくりと時間が必要な場合には、用意した内容の全てを行う必要はありません。臨機応変に対応した方がよいでしょう。計画の段階で、時間よりも早く進んでいる場合どうするか、時間が足りなくなりそうな場合どうするか等を考えておくと、その状況になったときに、余裕をもって進行することができます。

②テーマに沿った進行

- 参加者が漠然と雑談をするよりも、各プログラムの「テーマ」をはっきり示すことで、より話し合いが深まります。
- 話題がそれた場合は、発言者の意見にも同調しながら、テーマに戻すように心がけましょう。

4 参加体験型学習活動の基本的な流れ

1 アイズブレイク

※簡単なゲームで
心と体をほぐします。



緊張が
とれたみたい。

2 ねらいの確認

※キーワードを提示し、
ねらいを確認します。



ねらいが
わかったぞ。

3 中心の活動

※進行役の意見を押しつける
のではなく、温かい雰囲気
で終わるように心がけ
ましょう。



なるほど！
いいこと
聞いた。

4 まとめ

※グループ活動のあと、
全体で意見を共有します。
(個人→グループ→全体)



それぞれの家庭で
できそうなことから
取り入れてください。